

医療関係者と市民が語り合う「あとほ一むカフェ」

市民と医療者、医学部生が健康や医療について考えや思いを自由に語り合う「あとほ一むカフェ」が開かれている。代表世話人の中野重行さん(大分大医学部名誉教授、元同大学病院長)は「コミ

ュニケーション能力を高めることで医療者と市民の距離を縮めることができる。健康に関する情報を見極める能力(リテラシー)を高める機会にもしたい」と意気込んでいる。



ストレスについて体験談や対処法を話し合う参加者＝大分市のJCOMホルトホール大分

会話能力を高め 健康情報見極め

中野さんは臨床薬理学教授時代の1992年に、医学部生と全人的医療(患者の心理や社会的背景も含めて診療する医療)について語り合う体験型学習の自主的な勉強会を開いていた。勉強会は2006年まで続き、計123回延べ約700人が参加した。

月1回医療への思い自由に 程度開催

退官後も医療者のコミュニティで開催する予定。24日は開き、約20人が参加。中野代表世話人が話題提供者の藤咲里花さんを話題提供

を務めた。ストレスは環境に適応しようとする体の自然な反応だが、過剰になると心身の不調が出てくることを説明。参加者は4グループに分かれて、ストレスの原因や症状、対処法について話し合い、結果を発表。運動や趣味などの時間を確保したり、人に話したり、日記に書き出して客観化することでストレスを受け入れることの重要性を確認した。今後月1回程度のペー

カフェ形式 さまざまなお茶を飲みながら
職場を離れて同じ立場で気軽に語り合うこと。フランスのカフェで始まったことから対話形式の会をカフェと呼ぶ。近年、国内でも「認知症カフェ」などが開催され、広がりを見せている。